



ネイチャーセンターだより

2022年3月号

新・いきもの図鑑



オス



メス

※写真は根室市外で撮影

カワアイサ (カモ科)

カワアイサは、オスは頭が緑色で、背は黒く、体は白色で少しピンク色をしています。メスの頭は栗色でボサボサした冠羽がついています。オスもメスも嘴と足は赤色です。

日本では、多くが冬鳥として広い湖や内湾などに渡来します。北海道では、1年中見られ、繁殖もしています。風蓮湖周辺では、夏になると、親子連れのカワアイサを目撃することがあります。巣は、湖や川などの近くにある森の中の木の洞の中に作ります。ヒナが孵ると、親は、ヒナを水辺まで連れていきます。

カワアイサは、魚を食べるカモの仲間です。頭だけを水中に入れて魚を探しながら泳ぎ、もぐって捕まえます。

【参考文献】

福田道雄. 1996. 日本動物大百科 3 鳥類 1. 平凡社. 東京.

高野伸二. 2015. フィールドガイド日本の野鳥増補改訂新版. 公益財団法人日本野鳥の会. 東京.

コハクチョウ (亜種アメリカコハクチョウの特徴を持ったもの) が飛来

NEWS

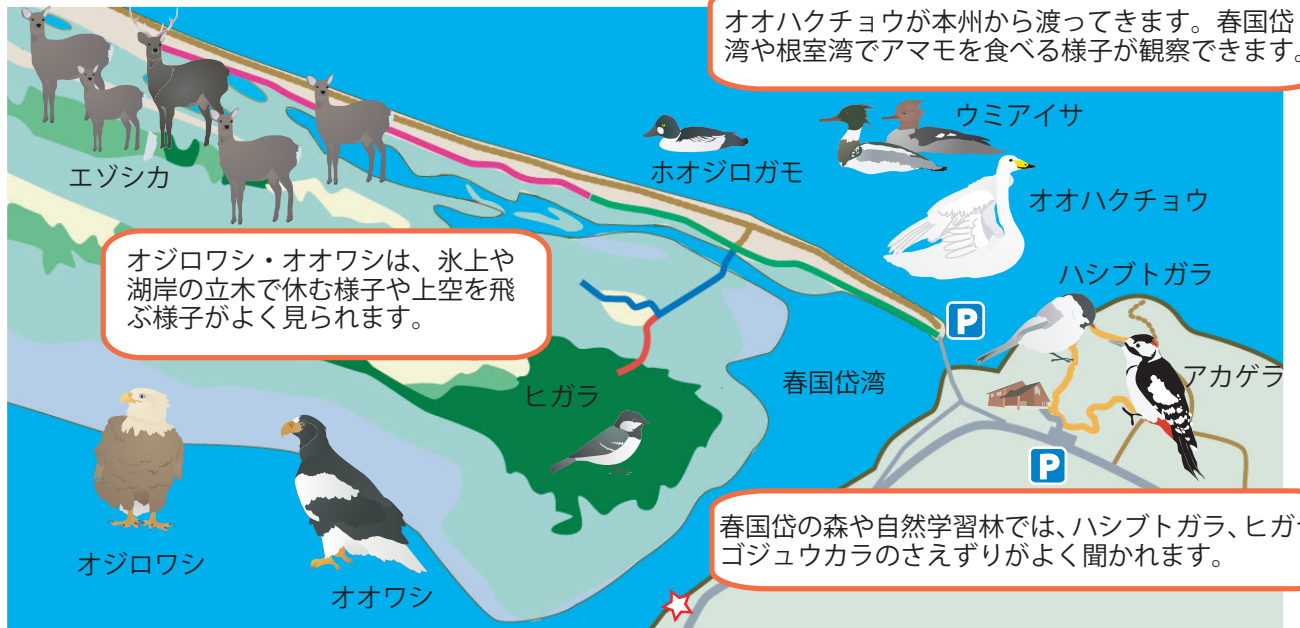
2022年2月26日、春国岱の鳥類調査の際、根室湾上のオオハクチョウのむれの中に、やや小さいコハクチョウ1羽を見つけました(古南幸弘、稲葉一将)。根室に来るハクチョウ類はほとんどがオオハクチョウで、コハクチョウはまれです。さらに珍しいのは、この鳥はくちばしは大部分が黒く、黄色い部分が小さく、おもに北アメリカに生息するアメリカコハクチョウという亜種(同じ種の中で地域的に異なる外観をもつもの)の特徴に似ていました。ただ、この黄色い斑は、図鑑で見るアメリカコハクチョウに比べるとやや大きめでした。欧米での研究によれば、くちばしを真横から撮った写真で黄色い部分の面積の割合を測ると、アメリカコハクチョウでは0~16%(平均3.1%)で、アジアからヨーロッパに住むコハクチョウ(亜種コハクチョウ)は23%以上とされています。

そこで、このコハクチョウの写真を高田令子さんと加藤義則さんからお借りして黄色い部分の面積を測ったところ、16%を少し超えていました。アメリカコハクチョウの中には、北アメリカからロシア北東部に飛来して繁殖するものが少数おり、亜種コハクチョウとペアになることもあります。こうした亜種間のペアの子孫では、黄色い斑が16%より大きい場合がある、との研究もありますので、この個体もそうしたペアの子孫の可能性がります。日本各地や道内でも、ちがう亜種どうしのペアや、ふたつの亜種の間隔的な特徴を持つコハクチョウが観察されています。



黒いくちばしのコハクチョウ(右) 左奥はオオハクチョウ
(2022年2月26日 写真提供: 高田令子さん)

見どころMAP



オオハクチョウが本州から渡ってきます。春国岱湾や根室湾でアマモを食べる様子が観察できます。

オジロワシ・オオワシは、氷上や湖岸の立木で休む様子や上空を飛ぶ様子がよく見られます。

春国岱の森や自然学習林では、ハシブトガラ、ヒガラ、ゴジュウカラのさえずりがよく聞かれます。

- 観察路(ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路(ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路(キタキツネコース0.8km、約20分)
- 観察路(アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- 観察路(小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路(春国岱上は車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)
- ★ 東梅野鳥観察舎(東梅ハイド)

3月の見どころ予報

- 凡例
- ぜったい見られる (と思う)
 - ちょっと気をつければ見られる
 - + よーく気をつければ見られる
 - ・ めったに見られない

オジロワシ オオワシ	○	北へ渡り始めるため、個体数が減り始める。周年、春国岱周辺に生息するオジロワシは、繁殖の準備に入る。
タンチョウ	+	上旬頃になると、風蓮湖周辺に戻ってきて、繁殖の準備に入る。
オオハクチョウ	○	本州北部などの越冬地から渡ってくるため、個体数が多くなる。昨年は、3月12日に風蓮湖内で2,601羽確認された。
カモ類	○	南からヒドリガモ・オナガガモ・スズガモなどが渡ってくる。オスは、美しい姿になっている。
カモメ類	○	オオセグロカモメ・シロカモメが風蓮湖や根室湾でよく見られ、カモメ・ワシカモメが見られることもある。
春国岱	野鳥(森)	運が良いと、クマゲラの鳴き声が聞けたり、森の上を飛ぶ姿が見られる。
	けもの	エゾシカ、キタキツネが見られる。
自然学習林	野鳥	ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラなどのさえずりや、キツツキ類のドラミングが聞こえるようになる。
	けもの	エゾシカ、キタキツネが見られる。稀にエゾリスが見られることもある。

根室の「高病原性鳥インフルエンザ」

「高病原性鳥インフルエンザ」については本誌 11・12月号でもお伝えしましたが、その後、本州・九州では次々と野鳥への感染発生が見つかり、1月以降は道内各地でも野鳥への感染発生が続いています。根室内でもハシブトガラスの死体からたびたびウイルスが見つかり、本州以南から渡り鳥が帰ってくるこれからの季節もなお、警戒が必要です。

「高病原性鳥インフルエンザ」は、鳥どうし（主にカモ類）に流行する「鳥インフルエンザ」のうちで、ニワトリにうつると重い症状になり死ぬこともある特殊なタイプの感染症です。通常の野鳥観察で野鳥から人にうつったり、また加熱された鶏肉や卵を食べることで人にうつったりする病気ではありませんが、ニワトリを飼育している農場にこのウイルスが入ると、ニワトリが死んでしまう他、病気が広がるのを防ぐ目的で農場内のニワトリを殺処分する必要があり、経済的な影響が大きいのです。ウイルスが含まれている鳥のフンや羽毛を踏んだ人や車が、農場や、鳥を飼っている家庭、動物園などの施設にウイルスを運んでしまうことは、避けなければいけません。

また、猛禽類やハクチョウなど特定の野鳥にうつった場合にも症状が重くなります。今年の場合、北海道・東北地方では、オジロワシ、オオワシ、ハシブトガラス、オオハクチョウ、マガン、マガモが死んだり弱ったりして回収されています。野鳥観察の際に、野鳥生息地から他の野鳥生息地に人間がウイルスを運んでしまうことも考えられます。改めて、次の注意点を気に留めていただければと思います。

【野外観察について】

- ・野鳥のフンや羽毛をできるだけふまない、さわらないようにする。
- ・野外観察の後は、くつや三脚の足、車のタイヤをしっかりと洗い、できればアルコールなど（新型コロナ対策で器物の消毒に使っている薬液）で消毒する。あちこちの野鳥生息地を訪れる場合も同様。
- ・帰りに動物園や鳥の飼育施設、農場には立ち寄らない。
- ・生きている野鳥や野鳥の死体には、素手でさわらない。
- ・もしどうしてもさわらなければいけない時は、使い捨ての手袋を使う。流水とせっけんで手をよく洗い、うがいをする。
- ・弱った野鳥や死んだ鳥を見つけた場合、数が多かったり、見慣れない鳥の場合は、手をふれず、根室振興局環境生活課に連絡をする（電話 0153-23-6823）。ハクチョウ、ワシ類の場合は 1羽でも。（判断に迷う場合は根室振興局かネイチャーセンターにご相談を）
- ・小鳥のエサ台はこまめに掃除、消毒を。
- ・念のため、野鳥のフンや羽毛を大量に吸い込まないように注意する（海外ではごくまれに、人にうつった例があります）。

【鳥とのつきあい】

- ・鳥を飼育されている方：飼育鳥を野鳥と接触させない。野外観察から帰ってきた場合は靴底や手指、車のタイヤの洗浄・消毒を忘れずに。
- ・野鳥どうしが濃厚接触する機会をつくらないため、カラス類、猛禽類、カモやカモメなどへの餌やりは避ける。
- ・特にカラスをたくさん集めてしまわないよう、生ごみ、雑魚は野外に捨てない。シカの死体を見つけたら、カラスやワシが来る前に撤去してもらうよう、道路の管理担当部署に連絡する。

国道 釧路開発建設部根室道路事務所 ☎0153-24-4188

道道 釧路総合振興局釧路建設管理部根室出張所 ☎0153-23-6391

市道 根室市役所建設水道部都市整備課 ☎0153-23-6111

高病原性鳥インフルエンザは、人が大量に鳥を飼うことにより、鳥インフルエンザの毒性を強めてしまった結果生まれたと考えられています。希少な野鳥も多く生息する根室で、これ以上感染が広がらないよう、皆さまのお気づきをよろしくお願いいたします。

（文責：チーフレンジャー 古南幸弘）



最新の情報は、上の QR コードから、環境省、北海道庁のウェブサイトをご覧ください。

ケアシノスリが観察されました

今年、春国岱周辺では、1月15日と2月23日にケアシノスリ1羽が観察されました(表1)。ケアシノスリは、カラスよりも少し大きく、白と黒のコントラストが美しいタカの仲間です。北海道では、冬鳥として平野部や海岸に渡来します。

春国岱だけでなく、落石岬や三里浜、花咲港周辺での観察情報もあります。春国岱周辺と落石方面で確認されたものが同一個体かは不明です。



写真 2022年1月15日、東梅ハイドで撮影

表1. ケアシノスリの2022年1月～2月の目撃情報

春国岱周辺での記録		
年月日	観察内容	観察者
2022年1月15日	風蓮湖上を飛ぶ1羽を確認。春国岱の第3浜堤を越え、北方向へ飛んで行った。	稲葉一将
2022年2月23日	ネイチャーセンターの前浜湿地で1羽が観察窓の目の高さを東から西へ飛行通過。ハシブトガラス1羽にモビングされていた。	古南幸弘
春国岱周辺以外の場所での記録		
年月日	観察内容	観察者
2022年2月6日	落石岬の三里浜より1羽を確認した。	板澤直樹さん
2022年2月7日	花咲港周辺で1羽を観察した。	古南幸弘
2022年2月19日	10:00に1羽を落港周辺で、11:15に1羽を三里浜近くで観察した。	高田令子さん

春国岱ネイチャーセンターのイベント情報

◆ねむろの野鳥イラストコンテスト2022 作品展

根室市、別海町、中標津町、浜中町の児童生徒が描いた作品405点を展示します。

- ・会期：2月1日(火)～4月10日(日) ・会場：春国岱ネイチャーセンター
- ・主催：ねむろバードランドフェスティバル実行委員会

◆野鳥図鑑画家 谷口高司 作品展「朝日に一番近い街 根室の鳥展(冬)」

根室で冬に見られる鳥を中心とした、新作6点を含む原画23点を展示します。

(1月に実施した作品展の再展示です)

- ・会期：3月5日(土)～4月10日(日) ・会場：春国岱ネイチャーセンター
- ・主催：ねむろバードランドフェスティバル実行委員会



募集中!

ボランティア「スंक」

春国岱ネイチャーセンターでは、ボランティアスタッフを常時募集しています。春国岱や風蓮湖、ネイチャーセンター周辺の森の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び守ることを目的としています。月に1回、ミーティングを行い(基本的に最終火曜日)、自然学習林の樹名板を作ったり、イベントを企画・実施したりしています。

熱いながらもゆるい楽しい集まりです。ご興味のある方はネイチャーセンターまでお問合せください。

- ◆対象：18歳以上
- ◆年会費(ボランティア保険料含む)：1,000円

フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 所定の場所での喫煙にご協力ください
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。またマダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)

〒086-0074 北海道根室市東梅103番地

TEL. 0153-25-3047 FAX. 0153-25-8570

Eメール. nemu_nc@marimo.or.jp

HP. http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

Face Book. <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆休館日：(開館時間9:00～16:30)

3月2・9・16・22・23・30日

◆団体でご利用の方へ(事前予約制)

自然観察の案内やスライド上映などのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録